

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070001195		
法人名	有限会社 だんらん		
事業所名	グループホーム だんらん	ユニット名	だんらんA
所在地	福岡県築上郡吉富町直江77-4		
自己評価作成日	令和2年		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	令和2年11月21日	評価結果確定日	令和3年3月29日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームだんらんは平成16年に設立され、場所はJR三毛門駅又は吉富駅より車で5分程度で、旧国道10号線沿いに位置している。平成23年に新しくユニットを増床し[地域とのつながりを大切にすること]を理念に掲げ、より地域のニーズに応えられるようになった。近隣には公共施設 スーパー マーケット 小中学校があり、学童生徒たちと、すれ違う際には挨拶を交わしたり、地域の行事 際事にも積極的に参加したりしている。また、施設行事も回覧板で地域の方々にお知らせしたりして親睦を深かめている。職員も地域密着型のサービスということを意識して、利用者様やご家族様の視点で物事を考えながらケアを行っている

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームだんらんは、大分県との県境、幹線道路沿いに位置する木造平屋建て2ユニットの事業所である。敷地内には、同法人運営の小規模多機能型居宅介護事業所や有料老人ホームが併設され、運営推進会議を始め、各種行事、防災訓練、食事提供、研修等で様々な連携を図っている。設立時から「地域密着」を理念に掲げ、地域との協議を重ね、開設に至ったことを背景に、事業所は地域の行事・役割への積極的参加や、地域住民を事業所行事へ招くことを通じて、交流を行っている。運営推進会議も多様なメンバー構成で開催され、運営状況の報告や忌憚のない意見交換を行いながら、情報発信に努めている。メンバーでもある自治会長が協力的であることから、防災面では地域との連携構築が出来ている。今後、様々な面で地域との連携強化が期待される。職員は、センター方式を参考にしたアセスメントをもとに、入居者一人ひとりの生活歴や趣味、嗜好等の把握に努めている。今後、更なる充実を経て、一人ひとりの想いや意向に寄り添った運営が期待される。コロナ禍において、敷地内の3事業所が切磋琢磨し、社会資源を活用しながら、地域との連携を一層深め、更なる発展を期待させる事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念は常に見える場所に掲げており、職員が常に意識出来るようにしている。カンファレンスにおいて、理念に基づいた支援を行うことが出来るようにその都度確認を行う	設立時より、地域密着型サービスの意義を踏まえた独自の理念を作り上げている。職員は、入職時の面談で必ず説明を受けており、毎朝唱和することで意識付けを図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や祭事には積極的に参加したりしている。地域の一員として認められるように努めている 施設行事への参加などを地域住民の方々に呼びかけている	地域行事への参加、事業所行事への招きを通して交流を行っている。道路清掃には職員が定期的に参加し、地域の一員としての責務を果たしている。運営推進会議のメンバーでもある自治会長は協力的で、顔の見える良好な関係が築けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設を常に開放して、地域の方々がいつでも相談に来られたり、交流がもてるようにしている。 また、行事への参加を訪問や回覧板などを使って呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域関係者の方々やご家族様に出席していただき定期的に会議を行っている。 施設の状況説明や福祉制度に関する情報交換等を行ったり、ご意見を参考にして施設改善に前向きに取り組んでいる	運営推進会議は、自治会長、民生委員、駐在所警官、役場職員、地域包括支援センター職員、家族と多様なメンバー構成で、定期的に開催されている。運営状況の報告や時宜を得たテーマでの意見・情報交換等を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に会議に出席していただいたり、施設改善の為に、相談を担当の方にするようにしている。また、分からない事などはその都度相談するようにしている	地域推進委員会での連携のみならず、平素から報告や情報提供、相談等を行っており、良好な関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は原則行っていない。 新人職員にも、書面 口頭で、方針を伝え、拘束禁止を徹底している。 委員会を設置し定期的に会議を行って身体拘束廃止について話し合いを行っている。	委員会の設置、研修参加を通して、職員は身体拘束について禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解し、問題意識の共有を図りながら、身体拘束をしないケアの実践に努めている。実際、身体拘束は行っていない。	委員会の議事録が、2018年5月25日の1回しか確認出来なかった。会議の定期開催、又は議事録の整備を期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	新人オリエンテーション時、書面をもって指導している。虐待について職員全員が、理解し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員間で新しい情報や知識を共有できるように、施設内での学習会を開き、周知徹底を行っている。	権利擁護については、施設内研修の年間計画に位置付け、学ぶ機会としている。資料に基づき学習することで制度の意義や必要性を理解し、職員間での共有を図っている。現在、制度利用者はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には、ご本人様 ご家族様に十分な説明等を行い、質問などあればその場で解決するようにしています 納得された上で契約書に署名、捺印をして頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域運営推進会議や家族会を中心にカンファレンスや面会時にも、積極的にご家族様の、意見を伺い、取り入れている。	平素から面会や電話、カンファレンス時を活用して、コミュニケーションの充実を図り、意見の収集と運営への反映に努めている。年2回の家族会開催や毎月の個別の「だんらん便り」を通して情報発信を行っている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットで会議を行い、それを職員会議で提案している。決定したことは必要に応じて職場の職員に通達している。	管理者は、毎月のユニット会議で現状報告を行い、職員の提案を受け付けたり、意見交換の場としている。毎回忌憚のない意見交換がなされ、設備や待遇面での反映実績がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修会参加に関して補助したり、目標を持ち達成した。職員には、賞与時に査定を行い評価している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別 年齢 学歴に関係なく「やる気」を重視して採用を行っている。家庭の事情等で時間の制限がある職員に関してもできるだけ配慮し、働きやすい職場づくりを目指している。	職員の採用にあたっては、性別や年齢等を理由に採用対象から排除されることはない。実際、30代から70代迄の幅広い年齢層の職員が勤務している。希望する研修にも参加出来るよう配慮がなされたり、業務内で各職員の特長等が活かされる場面も設けられており、働きやすい環境作りがなされている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	個人情報保護 虐待防止に関しては、勉強会を行うなどして、職員間の意識を高める努力をしている。	年間研修計画に、虐待防止や権利擁護が位置付けられ、実際の業務に関する人権教育、啓発に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内容研修や外部研修への積極的参加を勧めている。未経験者には、経験者がその都度、論理的な説明を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所からの見学者の受け入れ、こちらからも様々な施設をまわり見学等を行っている。地区にグループホーム協議会などが無い為全体的な交流は、今後の課題である		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	どのような内容の話でも、まずは傾聴し相手を受け入れることから行っている。本人を決して否定せず、安心感を持って生活して頂だけける心掛けています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の心配、不安等が軽減されるまで話を伺い、どのような相談でも、ご家族の都合に合わせて話し合う場を持っている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	様々なサービスの紹介を行い、状態に応じて必要があれば、他の施設の紹介も行っている。また、ご家族の負担を軽減するために他施設との連絡調整を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来ることは自分で行っていただく食事や掃除等の作業は出来る範囲で共同で行っている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に月に一度、ご本人様の様子を「だんらん便り」で伝えている。また、ご本人様から訴えや希望があったときは、ご家族様に連絡を行っている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地区の行事や祭りなどに参加し、馴染みの関係を維持できるようにしている。施設の行事にも、地区の方々を招待している。	以前暮した家を訪れたり、馴染みの人が集まると思われる祭り等の地域行事へ参加している。家族・友人・知人の来訪を奨励し、馴染みの関係が継続するよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや施設行事等に出来る限り参加をしていただき、間に職員が入りながらコミュニケーションを図ることが出来るようにしている。また、トラブルは事前に回避できるよう職員が見守っている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後でも、ご本人様 ご家族様から相談があった場合はいつでも受け入れる体制をとっている。 から相談		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の趣味や嗜好を把握し、その人らしい生活が送れるよう努力している。	センター方式を参考にしたアセスメントをもとに、本人や家族より、一人ひとりの生活歴や趣味、嗜好等情報収集を行うとともに、日頃の言動等からも潜在化するニーズの把握に努め、本人本位の検討を行っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様 ご家族様その他の関係者より情報収集している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人のペースに合わせて、その時々々の状態を観察しながら支援を行っている。 職員間の情報の共有を図っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様 ご家族様 主治医の意見を十分に介護サービス計画に反映できるように、常に密な関係を築いている。	本人はもとより、家族、職員、主治医と連携を図りながら、本人本位の計画となるよう努めている。職員も常に計画書を意識したケアに取り組み、必要に応じて見直しを行いながら、現状に即した計画となるよう努めている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝 夕の申し送りで個別の変化を確実に伝え情報を共有しながら個別記録に記入して、介護サービス計画の見直しに生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じて、支援やサービス内容を考え直し、出来る限りご本人様やご家族様のニーズに沿えるようにしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区行事への積極的な参加を支援したり、施設行事に地域住民の方々の参加を呼びかけたりして交流を図っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医を確認し、入居後も引き続き受診や往診が出来るような体制をとっている。無理に主治医を変えるようなことは行っていない。	本人・家族の希望を尊重し、かかりつけ医への受診が継続出来るよう支援している。受診については、家族の協力を得ながら、職員が同行する等、柔軟に対応している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックを行い、介護職員が確認した情報を管理者に報告し、必要時には、指示を受けている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関への入院時、情報提供書でその情報を伝えている。入院中も面会に行くなどし、状況の把握を行い、退院時の流れもスムーズにいくようにしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設での看取りに関しては、入居時に方針をご家族様と話し合い決めている。また、状況の変化などがあった場合には、その都度ご家族様と話し合いを行い、ご家族様の納得いく形をとれるようにしている。	事業所独自の指針を定め、入居時、及び必要に応じて説明を行いながら、本人・家族が納得し、関係者と情報を共有しながら、本人本位の支援となるよう取り組んでいる。研修の年間計画にも位置付けられている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行うことはしていないが、緊急に、対応できるようにマニュアルを作成し、いざという時は迅速な対応ができるようにはしている。年に一度消防署の指導の下、救急法の講習会を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回は、消防訓練を行い、そのうち1回は、消防署の指導の下で実施している。また、訓練時には、近隣の方々にご協力をお願いしている。	火災・地震・水害・夜間想定を含む防災訓練を年2回実施している。内1回は消防署の立会がある。訓練には自治会長、近隣住民の参加もあり、地域との連携も構築出来ている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に介護理念を意識して、言葉や態度などには職員一人一人が注意をしている。	個人情報の取り扱い、言葉遣い、排泄・入浴時の羞恥心への配慮等に特に留意し、一人ひとりの人格の尊重に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症により意思表示が出来ない方にも、日常の言動や行動から感じ取るようにして声掛けを多くし、コミュニケーションを深めるようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはおおよそ決まってはいるが、ご本人様の意思を尊重し、体操やレクリエーションへの参加は強制していない。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段から職員が、声掛けをして身だしなみを整えることができるように支援し、その方の好みに合わせて着換えを用意したりしている。入浴後に肌の手入れやマッサージ等を行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りのおやつをレクリエーションの一環として作っている。食事に関しては入居者の重度化などもあり、部分的に手伝いをいただいています。	栄養士が入居者の好みや季節、栄養バランスを配慮した献立を作成し、一人ひとりの状態に応じた提供を行っている。入居者は出来る範囲での役割を担っている。月に1、2回のおやつの手作りや外食等、食が楽しみとなるような取り組みも行っている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の管理の下、食事提供を行っている。体調などにより軟飯 刻み食などに変更可能である。水分補給は職員が気を付けて促したり、介助したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け行い確認している就寝前には義歯の洗浄を行っている。個々の能力に応じた口腔ケアを行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在の能力を維持出来るように、日中、夜間の区別をして対応している	排泄チェック表をもとに一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、適時言葉かけによりトイレ誘導を行っている。夜間についても、トイレ誘導やオムツ対応等、個々の状態に応じて柔軟に対応している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養面のことは、栄養士、身体面の相談は主治医への定期的な受診により解決出来ている。最終排便はチェック表にて解決できるように、なっている。水分補給や適度な運動にも取り組んでいただいている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に入浴の曜日 時間は決まっているがご本人様の意思や体調を考慮し柔軟に対応できるように努めている。	基本的に週2回入浴を実施している。夏場は併せてシャワー浴を実施する等、柔軟に対応している。希望があれば毎日の入浴も可能。一人ひとりの希望や体調、好みを尊重し、ゆったりとした入浴時間の確保に努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の予定をもって過ごされているが、ご本人様の意思や体調を把握し、訴え等を考慮しながら過ごしていただけるように努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者が服用されている内容の処方箋を職員全員が閲覧できるような管理を行っている。必要時には、意見交換や書面をもって情報を提供している		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人差はあるが、ご本人様の個性を理解して支援が出来るようにしている。ご本人様の状態の把握も行い、負担のかからない活動をしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様の支援要請への対応や地域資源の活用等の支援等をなるべくニーズに沿った支援を可能な限り心掛けています。	その日の天候や各自の体調に応じて、日常的に散歩に出掛けている。スーパーへの買物や個々の要望に応じての夕食、花見等の季節のドライブ等、地域資源を活用しながら外出支援を行っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブルを避けるため、認知症の状態などに応じた金銭管理を支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から家族 友人等へ電話をしたいとの希望があれば支援を行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前からの使用している馴染みの物品を置いたり、季節の物品を飾ったり、職員と共同で作った作品の展示を行っている。居室の温度管理湿度管理は、職員が適正に管理し快適に過ごしていただけるようにしている。	換気や照明、テレビ等をその都度調整を図りながら、各自が居心地よく過ごせるよう努めている。暮らしに彩りが与えられるよう入居者と職員の共同制作の季節の飾りが掲示されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の行動を制限せず、ご本人様の意思でリビングや居室で過ごしていただけるような空間作りをしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	古くなったものでもご本人様の思いを第一として、使い慣れたものを持って来ていただいている。なるべく自宅での生活環境と変わらないように配慮している	介護用ベッドとクローゼットが完備されている。各居室には、テレビや仏壇、調度品、編み物や趣味の物等、一人ひとりの生活歴を想起させるものが確認出来、本人本位の環境作りに努めていることがうかがえる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全室バリアフリーで手すりやスロープも設置し、安全に過ごしていただけるように環境づくりを行っている。トイレ 風呂の表示も分かりやすくしています。		